

Dynamic Changes of Fundus and Predictors of Visual Prognosis in New-Onset Vogt-Koyanagi-Harada Disease.

フォークト・小柳・原田病新規発症例の経時的眼底所見と視力予後予測因子

Guo S, Hu R, Wang M, Xia L, Yang P.

Ocul Immunol Inflamm. Published online June 25, 2024.

doi:10.1080/09273948.2024.2369940

フォークト・小柳・原田病（VKH）は、我が国のぶどう膜炎の原因と疾患として、サルコイドーシスに次いで2位に位置しています。眼所見では、急性期の脈絡膜の肥厚や波打ち所見、多房性の漿液性網膜剥離などがみられます。ステロイドパルス療法への反応は比較的良好とされますが、中には遷延や再発する症例も存在します。

この研究では、単施設で1年間観察できたVKH 151例299眼について後ろ向きに検討して、どのような所見や検査項目が視力予後と相関しているのかを調べています。その結果、ベースラインでの低視力、繊維素を伴う網膜下滲出斑、網膜色素上皮層皺襞、また1か月時点での網膜下液の残存が視力予後不良因子となることがわかりました。

日常診療においてVKH患者を診察する際に、この研究で見出された所見に注目することによって予後の予測に繋げることや、症例に応じた適切な治療選択が可能になるかもしれません。

文責：竹内正樹（横浜市大）